

MACF は 3 月 8 日の礼拝から 3 月末までお茶の水
クリスチャンセンターでの礼拝を休止しています。
4 月からは再開したいと願っています。それまでは、
ぜひ、Youtube で礼拝をささげてください。

祝福がありますように。 関根一夫

+++

MACF 礼拝説教要旨

2020.03.15

【パウロの責務】

ローマの信徒への手紙 1 章

1:13 兄弟たち、ぜひ知ってもらいたい。ほかの異
邦人のところと同じく、あなたがたのところでも何
か実りを得たいと望んで、何回もそちらに行こうと
企てながら、今日まで妨げられているのです。

1:14 わたしは、ギリシア人にも未開の人にも、知
恵のある人にもない人にも、果たすべき責任があり
ます。

1:15 それで、ローマにいるあなたがたにも、ぜひ
福音を告げ知らせたいのです。

1) 何度も

パウロはすでに何度もローマに出かけ、そこにいる
クリスチャンたちに会おうとしてきたようです。

しかし、それはうまく行きませんでした。パウロは
「妨げられている」という言葉を用いて「何処かに
出かけ有益な役目を果たそうとしても妨げられる」
ことがあることを経験してきました。自分の計画、
思い通りにいかないことが人生にはたくさんあり
ます。

もしかすれば、別のことで忙しくて、あるいは途中
で投獄されて、あるいは金銭的に難しくなって、あ
るいは病気になって、とか、いろいろな理由があっ
たと思います。とにかく、何度も行こうと思いな
がらそれが果たせずにいたのです。

結論から言いますと、最終的にはパウロはローマに
行くことができました。でも、それは彼が考えてい
たような伝道者が人々に迎えられて、という形では
なく、ローマの囚人として護送され、だからこそ間
違いなくローマに着くことができました。使徒言行
録の最後の場面にはそれが描かれています。

でも、パウロは自分が囚人としてローマに行くこと
になるなどとは全く考えていなかったと思います。

使徒言行録による記録ですが 28 章にこう書かれて
います。

28:14 わたしたちはそこで兄弟たちを見つけ、請
われるままに七日間滞在した。

こうして、わたしたちはローマに着いた。

28:15 ローマからは、兄弟たちがわたしたちのこ
とを聞き伝えて、アピイフォルムとトレス・タベル
ネまで迎えに来てくれた。パウロは彼らを見て、神
に感謝し、勇気づけられた。

28:16 わたしたちがローマに入ったとき、パウロ
は番兵を一人つけられたが、自分だけで住むことを
許された。

・・・

28:30 パウロは、自費で借りた家に丸二年間住ん
で、訪問する者はだれかれとなく歓迎し、

28:31 全く自由に何の妨げもなく、神の国を宣べ
伝え、主イエス・キリストについて教え続けた。

しかし、このローマ訪問は必ずしもパウロが考えた
通りの方法ではありませんでした。でも、そこで間
違いなく福音を彼は語ったのです。方法、手段が自
分の思い通りではないとしても、役割を果たす意欲
がパウロにはありました。

2) 果たすべき責任

パウロは、自分は神のしもべ、また神の福音のため
に派遣されたものとしての使命があると確信して
いました。果たすべき使命があると彼は言いました。
新改訳聖書では「1:14 私は、ギリシヤ人にも未開
人にも、知識のある人にも知識のない人にも、返さ
なければならない負債を負っています。」となっ
ています。

果たすべき責任とパウロが語ったものは「神様から
ローマの人たちのために預かったメッセージ、イエ
ス・キリストの福音」をなんとかして本来受取り手
であるローマの人たちをはじめ、すべての人たちに
届けることにありました。

それを果たすまでは、負債を負ったままのような気
持ちになっているのです。

3) ぜひ福音を

そしてパウロが伝えたいのは「福音」

良いニュースです。

最高のグッドニュースは「イエス・キリストの福音」
ですけれど、それが届くために彼は「人々の間に住
み

世話にならず自力で天幕作りをしながら生活費を
稼ぎ、生き様全部をさらしながら」福音を生き、福
音を語りました。

誰かに、良いニュースを伝えたいという感覚を持っ
たことはありますか？

何が彼らにとってグッドニュースなのか、どう伝え
ればグッドニュースとして伝わるのか、考えながら
言葉を選び、内容を選び、相手にとって益となるこ
とがらを伝えるわけです。

それは知恵が必要ですし、手法も必要ですが、最大
の重要事項は「信頼関係」だろうと思います。

そこから始まらないと、なかなかグッドニュースが
深まっていけないのです。

福音は、そういう形で私のところ届き、あなたのと
ころにも届いたわけです。